I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念·基本方針

I -	1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている	自己 評価結果			評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	а	√		理念、基本方針が文書(事業計画等の法人(保育所)内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等)に記載されている。
	判断した理由・特記事項等		<	イ	理念は、法人(保育所)が実施する保育の内容や特性を踏まえた法人(保育所)の使命や目指す 方向、考え方を読み取ることができる。
	理念・基本方針はパンフレット・HPに明記し、特に0~2歳児を対象としての特別の保育方針については、分かり易く文章化し		\		基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。
	保護者にすべて配布している。 入園後も育脳ガリキョラムや総本の読み聞かせプロジェク		S	H	理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。
	ついては、保護者懇談会や保護者との面談機会がある都度 に応じて内容についても伝えている。 出来れば園だよりのタイトルの上か下に、理念や保育方針		√		理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、保護者等への周 知が図られている。
	田末れは園によりのダイドルのエが下に、埋ぶや株肖方町など 1行ずつ加えることで保護者への周知に役立つものと考えられ る。		√	力	理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。
			<	+	理念や基本方針を保護者会等で資料をもとに説明している。(保育所)

Ⅰ-2 経営状況の把握

I - 2	2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	>	ア	社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。
	毎月の園児数・空き状況を本部や市役所に報告する中で、 者の変動を分析し保護者から選ばれる保育園となるよう		V	ウ	子どもの数・利用者(子ども・保護者)像等、保育のニーズ、潜在的利用者に関するデータを収集 するなど、法人(保育所)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析して
	極的に園児の紹介をしていただける様働きかけている。	-	V	エ	定期的に保育のコスト分析や保育所利用者の推移、利用率等の分析を行っている。
3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	V		経営環境や保育の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもどっき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。
	本部に毎月収支報告をし状況を共有し、課題把握に努めている。光熱費・食費の節約や備品購入などもすぐ購入するのではなく今あるものの活用など職員に都度説明して、理解を深めている。		V	ウ	経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。
			V	Н	経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。

Ⅰ-3 事業計画の策定

I - 3	3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確に されている。	自己 評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)				
4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	V	ア	中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。				
	判断した理由・特記事項等		V	イ	中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。				
	2020. 2. 01作成2021. 3月末決算から2024. 3月末決算までの経営計画で、売り上げ15億円、純利益1億円、ミッション・ビジョ		V		中・長期計画は、 数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、 実施状況の評価を行える内容となっている。				
	ン・バリュ-は明記している。しかし2020年度決算後の見 の経過が記載されていない。	見直し		エ	中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。				
5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b			単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。				
	判断した理由・特記事項等		V	イ	単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。				
	単年度計画としては、単年度収支予算が本部作成されて来るが、中・長期計画をベースにしたものと理解される。現場で作		V	ウ	単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。				
	成される単年度計画とリンクする接点が明確でない点、 求めたい。	改善を	V		単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。				

I - 3	3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが 組織的に行われ、職員が理解している。	b	V	ア	事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。
	全体的な計画からくる各事業計画書(研修計画・行事計画 育計画・保健計画等)を作成、本部からは収支予算書を入	手し	V	ウ	事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。
	ている。これらををベースにして、毎月職員会議で反省、次月 活動、ねらいや園児個人毎の様子を共有し、評価と見直しを		V	Н	評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。
	行っている。見直しは年1回となっているが、上半期、下当の2回見直しが望ましい。	干朔	✓	オ	事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等が)されており、理解を促すための取組 を行っている。
7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	V	ア	事業計画の主な内容が、保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。
	園だよりでは、毎月の行時予定や各クラスの 保育目標を、給 食だよりでは、旬の食物や行事食、身体によい食事、今月のお		V	ウ	事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、保護者等がよ り理解しやすいような工夫を行っている。
やつレシピ	やつレシピなど食育に関する情報の提供を行っている。		✓	Н	事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。

Ⅰ-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I - 2	I-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に 行われている。	自己評価結果	N		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	а	>	ア	組織的にPDCAサイクルにもとづく保育の質の向上に関する取組を実施している。
	判断した理由・特記事項等		>	イ	保育の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。
	職員会議での反省と改善策の共有、3か月毎の自己評価と との面談、組織としての第三者評価調査受審決定等、傘	下の保	>		定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的 に受審している。
	育園と情報を共有し、そこで得られた課題解決手法を共7 保育の質向上に真摯な努力を払っている。	有し、	>	H	評価結果を分析・検討する場が、組織として位置づけられ実行されている。
9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	>	ア	評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	職員間で課題の共有化が図られている。
	職員会議、毎月行う職員面談、本社と各園との月イチミーング、同僚間で行われる年1回の360度査定(全職員が関係	する	V		評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。
	職員を匿名で評価し封筒に入れて本部に送付する。その結果を本部がまとめて各個人毎に本人の評価結果を連絡してくるシステム)、年4回の自己評価等を積み重ねて計画的な改善に努めている。	V	エ	評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
		V	オ	改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行って いる。	

Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

Π	-(1) 管理者の責任が明確にされている。	自己評価結果			評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し 理解を図っている。	b	√	ア	施設長は、自らの保育所の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	施設長は、自らの役割と責任について、保育所内の広報誌等に掲載し表明している。
	職務分坦表に明記し、市役所での施設長会議に参加し対応する		✓		施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。
	中で得られた情報を、職員や保護者へ周知させている。その権限委任についても同様に明確化している。	八工四	√	Н	平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限 委任等を含め明確化されている。
11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を 行っている。	b	V		施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等) との適正な関係を保持している。
	判断した理由・特記事項等		\	イ	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。
	いる。園長は社内外研修に参加し、その報告書を職員に回覧・		<		施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。
			V	エ	施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。

II - 1	-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。 _評	自己 価結果	a	評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
12	(1) 保育の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b 5	フ ア	・施設長は、保育の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。
	判断した理由・特記事項等		□ イ	・ 施設長は、保育の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。
	毎月の個人面談、3か月毎の自己評価結果の面談を通じて、意見や希望を把握した結果を職員の研修計画にも配慮している。 園長は職員会議議事録の欄外に赤字で毎月タイミングよく保育 目標達成のためのコメントを記入している。		ュゥ	,施設長は、保育の質の向上について組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的 に参画している
			ュュ	施設長は、保育の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行ってい る。
		5	☑ オ	・施設長は、保育の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。
13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を 発揮している。	b 5	Z ア	・ 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を 行っている。
	判断した理由・特記事項等	5	☑ イ	・ 施設長は、組織の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、 具体的に取り組んでいる。
	職員の配置を考慮し、休月工の負担程減・残余程減に労めてい る。		Z ウ	, 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、組織内に同様の意識を形成するため の取組を行っている。
			7 工	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために組織内に具体的な体制を構築し、自らも その活動に積極的に参画している。

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

П —	2 福祉人材の催保・育成				
II - 2	?-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の 体制が整備されている。	自己評価結果			評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	>	ア	必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	保育の提供に関わる専門職の配置、活用等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。
	各園に栄養士がいる。園長、保育士、調理スタッフの社にがある。保育士育成の為のキャリアスクールがあり、保	育士資	V	ウ	計画にもとづいた人材の確保や育成が実施されている。
	格取得後も働き続けてもらえるよう人材育成から就職で い取り組みを実施している。	さやり	>	エ	法人(保育所)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。
15	② 総合的な人事管理が行われている。	b	V	ア	法人(保育所)の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。
	判断した理由・特記事項等			イ	人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。
	年4回の自己評価、毎月の園長との面談、同僚からの3600 などによる緻密な人事評価を実施している。		\	ウ	一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。
	人事管理規程(人事基準)の整備および個人毎の職歴・ 研修受講経歴をまとめた人事手帳やキャリアパスを明確 人事基準の作成が望まれる。		>	エ	職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。
	人争参学の作成が主まれる。		>	オ	把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。
			V	力	職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。
II - 2	2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	自己 評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	а	V	ア	職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況 を把握している。
	職員のワーク・ライフ・バランスを考え、振替休日、有の希望を考慮し、独特のシフト作りを行うことで、心の	建康作	V	ウ	職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。
	りを目指している。心の健康をベースにして、子ども達 る事が基本となる様配慮している。	と接す	V	エ	定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を組織内に設置するなど、職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。
				オ	職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。
			\	カ	ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。
			\	+	改善策については、福祉人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。
			V	ク	福祉人材の確保、定着の観点から、組織の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。

II - 2	2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)					
17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	а	V	ア	組織として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。					
	判断した理由・特記事項等		V	イ	個別面接を行う等保育所の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。					
	職員会議や毎月行われる園長と職員の面談や本社と各園 1ミーティング、職員間で行われる360度査定、年4回の	自己評	V	ウ	職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。					
	価などが行われている。公平な評価を目指していることだ 材育成の基本となっている。	が、人	V	H	職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。					
			V	オ	職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。					
18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	V	ア	保育所が目指す保育を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。					
	判断した理由・特記事項等		V	イ	現在実施している保育の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、保育所が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。					
	社内では、園長、保育士、調理スタッフの研修フォーム し、執務スタートが出来る様準備している。各職種の研	俢	V	ウ	策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。					
	フォーマットは、事実経過とともに①→②→③と発展する を期待したい。	ること	V	エ	定期的に計画の評価と見直しを行っている。					
			V	オ	定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。					
19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	V	ア	個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。					
	判断した理由・特記事項等		V	イ	新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。					
	階層別研修を実施するとともに社外研修にも積極的に参加しる。職員同士のコミュニケーションも自由に行われて(いる。	V	ゥ	階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。					
	全職員について研修記録やキャリア・アップを目標にしたのファイル作成が望まれる。	た値別	V	エ	外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。					
			V	オ	職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。					
Π-2	2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)					
20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	С	V	ア	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。					
	判断した理由・特記事項等		V	イ	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。					
	実習生受け入れ基本姿勢を明文化し、①実習に入る前に②サンライズキッズ保育園の1日の流れ③確認テストを準備してい		V	ウ	専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。					
	る。 園長が受け入れ窓口となる研修生受け入れ手順等も文書付 受け入れ態勢を整えている。	比し、		エ	指導者に対する研修を実施している。					
	受け入れ態労を強えている。 開園して2年目を終わろうとしており、これから地域との 作りに入ろうとしている。実習生申し込みの早期到来を打 たい。	関係 期待し		オ	実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。					
ļ	· - · ·			L	ļ					

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

II - 3	3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が 行われている。	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b			ホームページ等の活用により、法人、保育所の理念や基本方針、保育の内容、事業計画、事業 報告、予算、決算情報が適切に公開されている。
	判断した理由・特記事項等		√		保育所における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。
	本部のHP、当園のHPに理念や基本方針、ビジョン、全国 について公開し、ウエブカメラで保育内容を映像で保護		V	1/	第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。
	えている。予算、決算情報までは公開していない。 第三者評価調査を既に他の府県で受審済みで、今年度は 第一名		V	Н	法人(保育所)の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人 (保育所)の存在意義や役割を明確にするように努めている。
	内の3園について受審が実現し、この結果は県IPに公開さ こととなっている。	れる			地域へ向けて、理念や基本方針、事業所で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を 配布している。
22	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取 組が行われている。	b	V	ア	保育所における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。
	判断した理由・特記事項等		√		保育所における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周 知している。
	内部事務、経理、取引については経理規定に基づき、そのは職務分掌表により明確化している。内部監査は受けてい				保育所における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。
	が、外部監査活用には至っていない。		V	Н	保育所における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。
				オ	外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。
				力	外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

_		自己	_		=7 (r o * 00 b / = 1 u + 7 (B o / 1 - 1 - 1)
11-4-(1) 地域との関係が適切に催体されている。 評価結果 1		Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)	
23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	С	V	ア	地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。
			✓	イ	活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板の利用等で保護者に提供している。
	今年度の計画では、福祉施設への訪問・交流、中学校なる ランティア活動受け入れ、近所の消防署や警察署への訪問 でいるでは、	どのボ 問を計	V	ウ	子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、職員やボランティアが支援 を行う体制が整っている。
	画していたが、コロナ禍の為に実施できていない。 戸外活動の際、交番などで交流を深めたり安全について見守っ ていただける繋がりを維持している。近隣の小規模保育園施設			エ	保育所や子どもへの理解を得るために、地域の人々と子どもとの交流の機会を定期的に設けるなどの取組を行っている。
	長との話し合いで交流問題も提起している。			オ	個々の子ども・保護者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。
24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確に しかり しなりを確立している。	С		ア	ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。
	判断した理由・特記事項等			イ	地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。
	本項で取り上げるボランティアは、地域の小学校の職場! 中学校の職場体験、高校のインターシップを想定して、!			ウ	ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載 されたマニュアルを整備している
	会と保育園をつなぐ柱の一つと位置づけている。 当園のボランティア規約では、20歳以上であること、将3 て支援者として働くことを目指すものとされており、本¤			エ	ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。
	うボランティアマニュアルを作成願いたい。	жісц		オ	学校教育への協力を行っている。
		自己評価結果			評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関 等との連携が適切に行われている。	b	V	ア	当該地域の関係機関・団体について、個々の子ども・保護者の状況に対応できる社会資源を明 示したリストや資料を作成している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。
	「必要な社会資源」とは、子どもへの保育の質の向上の† 連携が必要な機関や団体はリストアップしている。現状†	では行	>	ウ	関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。
	政機関中心に支援を受け入れている。虐待問題の研修でに 相談所等確認している。			Н	地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。
	これから地域社会との交流を図ろうとしているところに: 禍で前進できていない。 近隣の小規模保育園長ミーティングを具体化しようと動;			オ	地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子ども・保護者のアフターケア等を含め、地域で のネットワーク化に取り組んでいる。
	近隣の小が民族自国及ミーディングを具体にしまりと勤ら ている。次年度の取組を期待したい。	ешс	V	カ	家庭での虐待等権利侵害が疑われる子どもへの対応について、要保護児童対策地域協議会への参画、児童相談所など関係機関との連携が図られている。(保育所)
Ⅱ-4 る。	-(3) 地域の福祉向上のための取組を行ってい	自己評価結果			評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。			ア	保育所のスペースを活用して地域の保護者や子ども等との交流を意図した取組を行っている。
	判断した理由・特記事項等			イ	保育所の専門性や特性を活かし、地域の保護者や子ども等の生活に役立つ講演会や研修会等 を開催して、地域へ参加を呼びかけている。
	本項で取り上げている保育所は、一般の50名以上の保育所 項目と考えられ、評価項目から除外したい。 			ウ	保育所の専門性や特性を活かした相談支援事業、子育て支援サークルへの支援等、地域ニーズに応じ地域の保護者や子ども等が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。
	本園では逆に災害時に地域の協力を得られる様に働きかい しい。	ナく欲		エ	災害時の地域における役割等について確認がなされている。
				オ	多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。
27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	С	\	ア	保育所の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。
	判断した理由・特記事項等			イ	民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に 努めている。
	本年度の全体的な計画で本項に関わるものとしては、プレママス 子育て親からの育児相談、保育体験を掲げているが			ウ	地域住民に対する相談事業を実施するなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。
	ロナ禍の為に実施できていない。 まず上記目的を可能なものから順次開始するとともに、 シの民生、日帝未見しの関係が以ばれまれる。	当地区		エ	関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。
	の民生・児童委員との関係作りが望まれる。			オ	把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。
				カ	把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ш-	1-(1)	利用者を尊重する姿勢が明示されている。	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
28		:もを尊重した保育について共通の理解をもつた)取組を行っている。	а	V		理念や基本方針に、子どもを尊重した保育の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。
	判断した	○理由・特記事項等		V	イ	子どもを尊重した保育の提供に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。
	±とし ⁻	ち向シートにより、サンライズキッズ保育園で働 [、] ての心得を確認、承諾を得ている。人権の視点から	ら見た	V	ウ	子どもを尊重した保育に関する基本姿勢が、保育の標準的な実施方法等に反映されている。
	て・違い	共の接し方、言葉かけ・子供を大切にする保育に いを認め合う保育について・一人ひとりに寄り添	う保育	V	H	子どもの尊重や基本的人権への配慮について、組織で勉強会・研修を実施している。
	参加で	もの等、園内外の研修に参加し報告書を提出してし きない職員は、報告書にサインして共有している。 別に活動や遊びを行ったり、1.2歳児合同での活動	,	V	オ	子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。
	く取り	八れることで、年上の子のまねをしたり、年下の一 それることで、年上の子のまねをしたり、年下の一 ますることを学んでいて保護者からの評価も高い。	子には	V	力	子どもが互いを尊重する心を育てるための具体的な取組を行っている。(保育所)
	自己評価ライバ	mを3ヶ月に1回実施し、その中に子どもの権利擁護 レー保護について、評価、反省する取り組みを行し	、プ	V	キ	性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮している。(保育所)
	からも	平価、指導を得ている。		V	ク	子どもの人権、文化の違い、互いに尊重する心について、その方針等を保護者に示すとともに、保護者も理解を図る取組を行っている。(保育所)
29		:ものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した :が行われている。	b	V	ア	子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。
	判断した	と理由・特記事項等		V	イ	子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。
	象にして	コグを配信しているが入園時に承諾いただいた方の て取り扱っている。保護者にも他の子どもさんの ³		V	ウ	子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・資 務、利用者のプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を 皇施している。
	虐待防」	い等について入園時に説明している。 Lマニュアルを整備し、早期発見の為のチェック: 		V	エ	一人ひどりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを 守れるよう設備等の工夫を行っている。
	行ってし	日々の子どもや保護者の様子を見守り視診で確認 いる。 内に着替えを行うための椅子が設置してある。おむ		V	オ	子ども・保護者にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。
	換台も	トイレ内側に作り付けとなっている。おむつ交換、 替時、全裸で放置することがないように配慮し、f	トイ	V	力	規程・マニュアル等にもとづいた保育が実施されている。
		庶る工夫をしている。		V	+	不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。
Ш-	1-(2)	福祉サービスの提供に関する説明と 同意(自己決定)が適切に行われている。	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
30		希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極 提供している。	b	>	ア	理念や基本方針、保育の内容や保育所の特性等を紹介した資料を、公共施設等の多くの人が 入手できる場所に置いている。
	判断した	と理由・特記事項等		>	イ	保育所を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。
	をIPで:	イズキッズ保育園の理念や方針、当園の取り組み ⁴ b詳しく載せて公開している。市役所・支所・近M	粦の店	>	ウ	保育所の利用希望者については、個別にていねいな説明を実施している。
	ように	園のしおりを置き、転居してこられた方にも分かり 記慮している。園内見学が出来ないコロナ禍の状況 内環境をまとめた写真パンフレットや活動内容をご	兄か	>	Н	見学等の希望に対応している。
	パット	で見てもらいながら、中の様子や設備等も詳しく記		V		利用希望者に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。
31	◎ 保育	ている。 「の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく 引している。	b	V	ア	保育の開始及び保育内容の変更時の説明と同意にあたっては、保護者等の意向に配慮している。
		と理由・特記事項等		V	イ	保育の開始・変更時には、保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。
	保育内容	重要事項説明書を基に詳しく説明し同意を得てし 容変更時には、文書やメール等で知らせ説明し同詞 で		V	ウ	説明にあたっては、保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。
	外国籍(得ている。 外国籍の保護者、園児対応マニュアルを作成しているが、今 後、難聴や視野障害など多様な配慮が必要な保護者の為の対応		V	エ	保育の開始・変更時には、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。
	マニュニ	アルが必要と考えられる。対応マニュアルの作成な		V	オ	特に配慮が必要な保護者への説明についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。
32		所等の変更や家庭への移行等にあたり保育の継 に配慮した対応を行っている。	b		ア	保育所等の変更にあたり、保育の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。
		と理由・特記事項等	- 7	V	イ	保育所の利用が終了した後も、保育所として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。
		窓口になり、卒園生や転園先の求めに応じ対応して 必要な引継ぎ事項を記載した文書の作成を期待した。		V	ウ	保育所の利用が終了した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。

Ш- 1	-(3) 利用者満足の向上に努めている。	自己 評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)					
33	① 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、 取組を行っている。	b	\	ア	日々の保育のなかで、子どもの満足を把握するように努めている。(保育所)					
	判断した理由・特記事項等		V	イ	保護者に対し、利用者満足に関する調査が定期的に行われている。(保育所)					
	昨年は懇談会前にアンケートを配布し、それを基に個人面談? 実施したり、運営委員会で保護者代表の方1~2人に参加して		V	ゥ	保護者への個別の相談面接や聴取、保護者懇談会が、利用者満足を把握する目的で定期的に 行われている。(保育所)					
	らい保護者の意見や要望を聞き取っていた。他園で第三者を実施した項目を参考に、利用者アンケートを実施した。	意見	V	エ	職員等が、利用者満足を把握する目的で、保護者会等に出席している。(保育所)					
	や要望は職員会議で話し合い改善や要望に応えられること ぐに対応している。園での解決が難しい時は、本部に相記 決を図る努力をしている。アンケートの内容や対応につい	炎し解	>	オ	利用者満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、検討会 議の設置等が行われている。(保育所)					
	め、保護者に返している。 利用者満足に対する取り組みの継続を期待したい。	- で 切主	V	カ	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。(保育所)					
Ш	-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が 確保されている。	自己評価結果			評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)					
34	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	V	ア	苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。					
	判断した理由・特記事項等		V	イ	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。					
	重要事項説明書に「相談・要望・苦情窓口」として、「村情受付担当者」「相談苦情解決責任者」「第三者委員」だ	が明記	\	ゥ	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。					
	され、又HPにも掲載され公開する仕組みが確立している。 保育に関するマニュアルにも苦情対応マニュアルが整備で 基本手順、心構え、留意事項があり、利用者からの苦情で	され、	V	エ	苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。					
	本本子順、心構え、歯息事項があり、利用有がらの音情でする為に講ずる措置の概要が記載されている。苦情受付記 苦情結果報告書を備えている。開園当初、近隣から散歩B	□録•	V	オ	苦情内容に関する検討内容や対応策については、保護者等に必ずフィードバックしている。					
	もう少し静かにして欲しいという訴えがあった。その後、 会った時やチラシを配布時に挨拶などをし、顔見知りとな	出	V	カ	苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た保護者等に配慮したうえで、公表している。					
	解が深まっていった。		V	キ	苦情相談内容にもとづき、保育の質の向上に関わる取組が行われている。					
35	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保 護者等に周知している。	b	V	ア	保護者が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりや すく説明した文書を作成している。					
	判断した理由・特記事項等		V	イ	保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。					
	玄関に苦情フローが掲示され、保育士が話しやすい雰囲気を心掛けている。場所の確保の工夫を期待したい。	気作り		ウ	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。					
36	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速 に対応している。	b	V	ア	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュア ル等を整備している。					
	判断した理由・特記事項等		V	イ	対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。					
	相談や苦情を受けた時の対応マニュアルを整備し、社内研実施し共有を図っている。日々の送迎時、子どもだけでな	ょく保	V	ゥ	職員は、日々の保育の提供において、保護者が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。					
	護者への気配りや視診を行い、気になる時は保育士からのがけや、連絡帳で対応するようにしている。毎日、日報では、とば音見か担談などまればにより中でによりません。	を本部	>	エ	意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者の意見を積極的に把握する取組を行っている。					
	に上げ意見や相談などあれば伝え、内容によりすぐに対いる。遅れる時は理由を伝え後日対応することもある。こ 禍でコミュニケーションが取り難い状況が続くと思われる。	コロナ る。利	V	オ	職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。					
	用者アンケートの継続など、意見要望を聞く機会の継続で したい。		>	カ	意見等にもとづき、保育の質の向上に関わる取組が行われている。					
Ш	-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための 組織的な取組が行われている。	自己評価結果	Ŋ		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)					
37	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	V	ア	リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。					
	判断した理由・特記事項等		V	イ	事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。					
	事故対応マニュアルがあり、園長・チーフ・本部社員を構した事故防止対策委員会を年2回リモートで開催している	0	V	ゥ	子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。					
	日々の気づきをヒヤリハット報告書に記録し、各園の事例に分析・改善を行い共有し、事故防止に努めている。子と手や口にする玩具・遊具は毎日点検し、設備・避難経路が	ビもが	V	エ	収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実 施する等の取組が行われている。					
	月チェック表で点検している。SIDS対応訓練やAEDの使用 法・心肺蘇生講習など研修を行い、安心・安全 な保育に	方	V	オ	職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。					
	ないる。 にいる。 自園でのリスクマネージメントのリーダーを園 した体制で、引き続き子どもの安全確保に取り組んで欲し	長と	V	カ	事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。					
•		- 0		•						

38	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	а	V	ア	感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。
	判断した理由・特記事項等	断した理由・特記事項等		イ	感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。
	「感染症対応マニュアル」を作成し、食中毒やウイルス感染発 生時には市の情報を基に、連絡帳お知らせアプリや園内ホワイ			ウ	担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。
	トボードに掲示し、発生状況を保護者に知らせている。 ラヤ担当保育士を中心に食中毒予防や安全確保についての	げ修を	V	エ	感染症の予防策が適切に講じられている。
	行い、手洗い・手袋・マスクなど徹底した食事介助を行っている。コロナウイルス対策として、床の清掃や換気・手洗いなど職員全員が注意喚起し、ペーパータオル、手が洗えない子はウエットティッシュを活用し衛生面に配慮している。毎月の園だより・給食だよりで季節に特化した感染症予防対策を保護者に啓発している。		V	オ	感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。
			V	カ	感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。
			V	丰	保護者への情報提供が適切になされている。(保育所)
39	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	а	V	ア	災害時の対応体制が決められている。
	判断した理由・特記事項等	•	V		立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、保育を継続するために必要な対策を講じている。
	災害時対応マニュアルを整備し、さまざまな災害を想定した避 難・消火・不審者対応訓練を毎月実施し記録・反省を行い次回		V	ウ	子ども、保護者及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。
	につなげている。9月の引き渡し訓練では所要時間や、一斉メール配信・伝言ダイヤルの使用方法を保護者と確認し、防災	V	エ	食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	
	マップや緊急時連絡網を職員が目に付く事務所に掲示している。災害時の水・保存食・防災頭巾・携帯など3日分の備蓄がある。		V		防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携する など、体制をもって訓練を実施している。

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ −2	-(1) 提供する福祉サービスの標準的な 実施方法が確立している。	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
40	(保育について標準的な実施方法が文書化され福祉 サービスが提供されている。	а	V	ア	標準的な実施方法が適切に文書化されている。
	判断した理由・特記事項等	断した理由・特記事項等		イ	標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。
•	「保育に関わるマニュアル」を作成し、食事・排泄・睡 脱・遊びなど、発達状況に応じた保育サービスの実施上(の留意	V	ウ	標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。
	点を文書化し職員に周知を図っている。こどもの人権や パシーの保護・擁護についての研修や年4回の自己評価	を	V	エ	標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。
	チェックし、自身の保育の振り返りを行い質の向上に努る。 る。	y) (l·	V	オ	標準的な実施方法により、保育実践が画一的なものとなっていない。(保育所)
41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	V	ア	保育の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が組織で定められている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	保育の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。
	40項目の文書には初版日・裏面に改訂日・内容を表記で式になっており、園長ミーティングで検討し見直してい	る。年	V	ウ	検証・見直しにあたり、指導計画の内容が必要に応じて反映されている。
	一度の運営委員会(保護者2名と園長)や保護者アンケー ら意見や提案があった時には指導計画に反映している。	ートか	V	エ	検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。
II −2	-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス 実施計画が策定されている。	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	V	ア	指導計画策定の責任者を設置している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。
	指導計画責任者(チーフ保育士・保育士)とし、入園児(報・家庭調査票・発達記録などを基に保育計画に活かし ⁻	てい	V	ウ	さまざまな職種の関係職員、必要に応じて保育所以外の関係者が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。
	る。必要に応じて管理栄養士や本部担当者の意見を聞き、 的な計画に基づき、週日案・月案を立て、評価・見直した。	を行っ	V	エ	全体的な計画にもとづき、指導計画が策定されている。(保育所)
	ている。職員会議やクラス会議で個々の子どもの様子なる し、指導計画等を担任保育士が記入後、チーフ保育士・ 長・園長代表の手順で最終確認を行っている。気にかかっ	施設	V	オ	子どもと保護者等の具体的なニーズ等が、個別の指導計画等に明示されている。(保育所)
	及・国民になり子順く取修確認を1つている。		V	力	計画の策定にあたり、さまざまな職種の関係職員、必要に応じて保育所以外の関係者が参加しての合議、保護者の意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。(保育所)
	COLUMN SIGNATURE		V	+	指導計画にもとづく保育実践について、振返りや評価を行う仕組みが構築され、機能している。 (保育所)
			V	ク	支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な保育の提供が行われている。(保育所)
43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b	V	ア	指導計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	見直しによって変更した指導計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。
	週日案・月案の指導計画に基づき、職員会議で子どもの ど話し合い評価・反省し次期計画に反映している。途中	入園児	V	ウ	指導計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。
	など緊急を要する案件は報告・連絡・相談して記録し、職員間で周知を図っている。		V	Н	指導計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、子ども・保護者の ニーズ等に対する保育・支援が十分ではない状況等、保育の質の向上に関わる課題等が明確に されている。

Ш-2	?-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に 行われている。	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化さている。	b	V	ア	子どもの発達状況や生活状況等を、保育所が定めた統一した様式によって把握し記録している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	個別の指導計画等にもとづく保育が実施されていることを記録により確認することができる。
	毎月「個人経過記録」を作成し、子どもの生活状況や成 を記録している。記録の取り方など社内研修し、園長・	チーフ	V		記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。
	保育士が助言・指導を行い、本部担当部署に提出し再確認を得ている。毎月の職員会議で意見・提案を出し合い情報を共有し		V		保育所における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。
	理解の場となっている。		V	オ	情報共有を目的とした会議の定期的な開催等の取組がなされている。
45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	а	V		個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。
	判断した理由・特記事項等		V	ノ	個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。
	就業規則に個人情報管理規程・取り扱い、漏洩防止の遵記している。管理責任者を園長とし、個人情報は児童票、	連絡	V	ウ	記録管理の責任者が設置されている。
	帳で使用するiPadやカメラに集約しており、鍵のかかるロッカーで保管している。園で使用するPCには鍵をかけ、文書は5		V	Н	記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。
	年保存としている。職員は新人研修・社内研修を行い、記録・連絡帳マイページ・保護者IDなど情報の管理を遵守徹底し、保護者には入園児・進級時に、個人情報使用同意書・写真掲載承諾書で説明し同意を得ている。	し、保	V	オ	職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。
		ᄓᆥᄉᄼᆙ	V	カ	個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。

A-1 保育内容

		自己			
A-1	-(1) 保育課程の編成 	評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子ども ① の心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的 な計画を編成している。	b	V	ア	全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。
	判断した理由・特記事項等	~	V	イ	全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。
	全体的な計画は、理念・保育方針・一人ひとりに寄り添配慮・人格尊重・安全・快適・事故防止を全職員合意に		✓	ウ	全体的な計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。
	き、今年度は地域社会との交流や連携を目指して作成して	てい	V	エ	全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して編成している。
	る。残念ながらコロナ禍により計画通り推進できない部分 されており、次年度の計画に期待したい。	かり残	V	オ	全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。
A-1	-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
2	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ご すことのできる環境を整備している。	а	V	ア	室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境は、常に適切な状態に保持している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。
	湿度・空気清浄・室内温度はこまめに子どもの様子と数f ながら調節しており、清潔に室内を保つ美化努力とチェ・	ックを	V	ウ	家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。
	行っている。消毒には次亜塩素酸水溶液を使用し、濃度 [。] 物によって変えながら子どもが手にするものはすべて毎!	日消毒	V	エ	一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。
	している。消毒は子どものいないときにその都度行い、「 大量物は一日の最後に行うなど子どもへの配慮をしている 具も園所有の通気性や消毒のしやすいコットベットを使り	る。寝	>	オ	食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。
	紙タオルやウエットティッシュを使い衛生面に配慮し、f からも評価を得ている。		V	力	手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。
3	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	V	ア	子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、 尊重している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。
	子どもの成長に合わせた声かけを頻繁に行いながら、自然来ることはせかさず保育士が待って促している。2歳児は	給食時	V	ウ	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。
	のエプロンも自分で着脱し、出来ない子どもには声を掛りら援助して出来るとほめる言葉を掛けていた。 担当保育士が1歳児の食事介助を行っている時、ゼロ歳児		V	エ	子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。
	ちを受容しながら、時にはおんぶをし、あやしながら安心恩 与える配慮をしている。	心感を	V	オ	子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。
			V	力	せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。
4	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b	V	ア	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を 行っている。
	朝の始まり、給食など毎日の生活の中で同じ曲を使用しては何が始まるのか自然と理解出来る様に生活習慣の導入。	を行っ	V	ウ	基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。
	ている。トイレの便座も温便座になって、子どもが不快! ないで気持ちよくトイレの習慣がつくように配慮している 歩の時には常に危険な場所、気を付ける事などその都度-	る。散	V	႓	一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。
	多の時には第に危険な場所、気を刊りる事なとての都及- に声をかけて自然に理解習得できるように心がけている。		V	オ	基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。
5	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子ども の生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b	V	ア	子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	子どもが自発性を発揮できるよう援助している。
	戸外での活動や散歩の際に保育士がまず活動場所での危限 生状態など色々なチェックを行い、子どもの安全を前も、	って確	>	ウ	遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。
所、歩行の注意点など声をかい うにしている。園庭は無いが の野菜や花を植え、水やりをし	保している。道中では理解できるような言葉で常に危ない所、歩行の注意点など声をかけながら、ルールを身についうにしている。園庭は無いが裏のスペースにプランター	けるよ	V	エ	戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。
	の野菜や花を植え、水やりをしながら観察が出来るようにエラしている。散歩で出なり近くの住民や交番のおまわりさんと持 拶し交流を図っている。自動車、電車なども子どもの興味を くものとして見に行くことを楽しみにしているので、安全に置	こ工夫	V	オ	生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。
		味を引	V	力	子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。
	慮しながら一緒に出かけている。		V	キ	社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。
			V	ク	身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。
			V	ケ	地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。
			V	コ	様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。

			-	
6	乳児保育(O歳児)において、養護と教育が一体的に ⑤ 展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や 方法に配慮している。	V	ア	0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。
	判断した理由・特記事項等	V	イ	0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。
	通園前の子どもの体調や離乳食の進め具合など保育士と保護者 で共有しながら養育に努めている。衛生面で消毒、ふき取りの	V	ゥ	子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。
	しやすいマットの上で過ごしたり、おんぶひもで負ぶわれて保 育士の温かみを感じながら過ごす場面が見られた。乳児用の椅	V	エ	0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。
	子で1, 2歳児の遊びを眺め楽しんだりしている。絵本も保育士が膝の上で抱き上げ、読み聞かせをしている。頻繁に声をかけ	V	オ	0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。
	ることで行動に変化が見られ成長している姿がある。	V	力	0歳見の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。
7	3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教 ⑥ 育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、 保育の内容や方法に配慮している。	V	ア	一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。
	判断した理由・特記事項等	\	イ	探索活動が十分に行えるような環境を整備している。
	合同で活動できる場面が多くあり全ての保育士が子どもの成 長、日々の活動の様子が認識できるという小規模保育園の良さ	V	ウ	子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。
	がある。常に子どもの成長に合わせた声掛けで、基本的な生活 習慣を促している。また活動の前に常に同じ歌を歌うことに	V	エ	子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。
	よって (朝の始まり、食事、お帰りの支度時など) 音楽によって時間の概念を自然に楽しみ理解できるようにしている。散歩	V	オ	保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。
	の際に色々な大人と触れ合う機会を作っている。保護者とは連 絡帳への記載や送迎時に子どもの情報を共有出来るよう、短い 時間でもなるべく声を掛け話す機会を作っている。園長が男性	V	力	様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。
	時間にもなるへく戸を掛け起り機会を作っている。園長が男性 という事もあり父親的な役割、家庭的な雰囲気を醸しだしてい る。	V	キ	一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。
8	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に ⑦ 展開がされるよう適切な環境を整備し、保育の内容 や方法に配慮している。		ア	3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り 組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。
	判断した理由・特記事項等		イ	4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。
	本項目は、小規模保育園として関係がなく、評価項目から除外 とする。		ゥ	5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つ のことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっ ている
			エ	子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に 伝える工夫や配慮がされている。
9	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備 し、保育の内容や方法に配慮している。	V	ア	建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。
	判断した理由・特記事項等		イ	障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。
	現在は障がいのある子どもは入所していないが、全園共通のマニュアルがあり、医療機関や専門機関との連携は取れるように		ゥ	計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。
	なっている。どのような障がいを持った子どもが入所するかによるが、ほぼ建物・設備に問題はない。何か連絡や必要なこと	V	エ	子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。
	が起こった時には、スマホアプリでの情報提供を行うシステム を取り入れている。現在は該当する園児はいないが障害児に対		オ	保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。
	応できる準備は出来ている。	V	力	必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。
		V	+	職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要は知識や情報を得ている。
		V	ク	保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。
10	長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の b 内容や方法に配慮している。	V	ア	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。
	判断した理由・特記事項等	V	イ	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。
	午後のおやつは園内で手作りし、人参ケーキやお好み焼きなど おいしく栄養のバランスも考えて提供している。長時間保育の	V	ウ	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。
	場合は、異年齢の子ども同士が遊ぶ機会ともなっていて、楽しい時間になるよう保育士は状況作りに配慮している。	V	エ	年齢の異なる子どもが一緒に過ごすことに配慮している。
	保育士全員に連絡が必要な場合には保育士間でのラインで連絡をとり子どもに問題が起こらないよう、不安がないように配慮	V	オ	保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。
	している。また保育士間での引継ぎ事項は、伝達以外にも連絡 はクラスごとのメモとしてボードに貼り確認が出来るようにし ている。	V	力	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。
		V	+	担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。
11	① 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保 育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している		ア	計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われて いる。
	判断した理由・特記事項等		イ	子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。
	本項目は、小規模保育園として関係がなく、評価項目から除外 とする。		ゥ	保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。
			エ	保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を 図っている。
			オ	施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。
		1	<u> </u>	<u>l</u>

		TOT 坐十』			
A - 1	-(3) 健康管理	自己 評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
12	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b	V	ア	子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。
	年間保健指導計画を基に、保育に関するマニュアルを作り 日々の健康管理に活かし、検温や視診を基に活動内容を浸		V	ゥ	子どもの保健に関する計画を作成している。
	いる。園だよりに季節に流行る疾病等の注意点を載せたり より送ってきた最近流行っている感染症等の情報を保護者	:病等の注意点を載せたり、市 感染症等の情報を保護者に伝 研修にも参加、知識を習得し実 - :え周知している。 既往症や予防接種状況を把握 追記している。		エ	一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。
	えている。SIDS訓練を年2回行い研修にも参加、知識を習践に生かしている。保護者にも伝え周知している。			オ	既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。
	入園前健康診断書や登録書により既往症や予防接種状況を し、その後必要な情報は聞き取り追記している。			力	保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。
	健康診断年2回・歯科検診年1回・毎月の身体測定にて健康 を行っている。 登降園時に自宅での様子を聞き取ったり、園での様子を行		V	キ	職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。
	豆件圏時に日もての様子を削さ取ったり、圏での様子を加りして共有を図っている。コロナ禍での留意事項を守りさる共有を図ってほしい。			ク	保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。
13	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b	V	ア	健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。
	□ 立ち上がりが遅かった子に対しては、体操に参加する時の 点や手順等教えてもらい保護者にも様子伝え、活かした事		V	ゥ	 家庭での生活に生かされるよう保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護 者に伝えている。
14	② アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについ	ار راوا د b	V	ア	各に伝えている。 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子 どもの状況に応じた適切な対応を行っている。
	で、医師からの指示を受け適切な対応を行っている 判断した理由・特記事項等		V	イ	ともの状況に応した適切な対応を行っている。 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。
	 アレルギー対応ガイドラインを整備している。 園として、全員で同じ食事を楽しく食べる環境を大切にし	7	V	ゥ	保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。
	国時の説明で除去食対応の子が在籍している時は、栄養/ スを考慮した除去食を全員に提供することを伝え保護者の	バラン	V	エ	食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。
	協力をお願いしている。アレルギー対応の子どものお盆*は色を変え誰にでも分かる様にしている。現在、除去食*	や食器 対応の	V	オ	職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要は知識・情報を得たり、技術を 習得している。
	子どもは在籍していないが、今後、様々なアレルギー対所 きる体制も期待したい。	らがで	V	力	目的でしている。 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行って いる。
A - 1	-(4) 食事	自己評価結果	Ø		・ ^{***} 評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
15	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	а	V	ア	食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。
	年齢別の食事指導計画を作成し、発達に合わせた調理方法 慮し食事を提供している。食事スペースと午睡の場所に25		V	ゥ	子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。
	間にし、食事前には毎日同じ歌を唄い「いただきます」としてうに口に運んでいる。友達の刺激を受けながら「おん	美味	V	エ	食器の材質や形などに配慮している。
	り」を2回する子もいる。食材の切り方を変えることで食 たり、マンションの庭を活用し季節の野菜を育て調理し、	べられ	V	オ	個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。
	関心を深める工夫をしている。給食だよりを毎月配布し、 はんの大切さの啓発や旬の食材で、おやつレシピをピック	アアッ	V	力	食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。
	プ紹介し保護者に好評を得ている。毎日の喫食状況は連終知らせている。離乳食については前期・後期・完了期と係と連携し個々に合わせた援助を行っている。		V	+	子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。
			V	ク	子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。
16	②子どもがおいしく安心して食べることのできる食事	а	V	ア	一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。
	** を提供している。 判断した理由・特記事項等		V	イ	子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。
	 毎月給食会議を行い、栄養バランスを考慮した献立表を2 養士が作成し、さらに各園には栄養士を配置し季節や産り		V	ゥ	残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。
	最上が行成し、とうに存留には不養上で配置して新りに存 材を採り入れ、自園で調理し提供している。調理室から一 とりの食事の様子を見ることで、喫食状況や嫌いなものが	-人ひ	V	エ	季節感のある献立となるよう配慮している。
	でき調理方法などに反映している。誕生食・ひな祭りのた 寿司・節分には鬼のハンバーグなど、地域の食文化や行事	らし 食で	V	オ	地域の食文化や行事食などを取り入れている。
	子どもたちが楽しみを持つ給食にしている。毎日の自主点 録簿等で衛生管理が適切に行い、安心・安全な食事を提供		V	力	調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。
	いる。		✓	+	衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。
				<u> </u>	

A-2 子育て支援

A-2	2-(1) 家庭との緊密な連携	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
17	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b	>	ア	連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。
	判断した理由・特記事項等		\	イ	保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。
	スマホでの連絡帳やオンラインでの動画で子どもの様子がれるので、便利であり家族間でも共有でき保護者からも	好評を	V	ウ	様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。
	得ている。また送迎時に保育士から声掛けをしてコミュニションを取るようにしている。	ニケー	V	Н	家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。
A - 2	2-(2)保護者等の支援	自己評価結果	Ø		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
18	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b	V	ア	日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	保護者等からの相談に応じる体制がある。
	送迎時に保護者と保育士とのコミュニケーションがうまくとれており相談事に対しても、込み入った内容は個別に対応して保育士と園長との連携も取っている。また内容によっては本部からの支援もあり記録も残るようになっている。小規模の事業所		V	ゥ	保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。
			V	エ	保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。
	の良さとして保育士間での情報交換がスムーズに出来、ま を図っている。	代 有化	V	オ	相談内容を適切に記録している。
			V	力	相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。
19	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期 発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b	V	ア	虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況につい て把握に努めている。
	判断した理由・特記事項等		V	イ	虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。
	今までに虐待は起こっていない。虐待防止に関してのマールは全園で共通しており、相談機関との連携も図れるよう	うに体	V	ウ	虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。
	制が整っている。時代の推移から、今後このようなケースが生れてくる可能性も高く、社内研修継続を期待したい。		V	エ	職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害 に関する理解を促すための取組を行っている。
			V	オ	児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。
			V	カ	虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。
			V	+	マニュアルにもとづく職員研修を実施している。

A-3 保育の質の向上

A-3	3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	自己評価結果	N		評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
20	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価) を行い保育実践の改善や専門性の向上に努めている	а	>		保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り自己評価)を行っている。
	判断した理由・特記事項等		<	イ	自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む 過程に配慮している。
	社内研修が行き届き、コミュニケーションがうまく行く様各種		\	ウ	保育士等の自己評価を、定期的に行っている。
	システムで支援しており、園長同志も協力し合っている。同社 独特の各種自己評価制度は、保育実践に欠くことができないも のとなっており、評価・見直し・スキルアップに生かしてい る。	いも	\	Н	保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。
		()	V	オ	保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。
			\	力	保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。